

複雑な問題を抱えた歯に対する再根管治療
-マイクロスコープを用いた新たなアプローチ-

○ 長尾 大輔
長尾歯科

日々の診療で再根管治療を行わない日はないばかりか、より複雑な状況に陥り、外科的歯内療法や抜歯に至ってしまうこともある。外科的歯内療法の代表的なものに、歯根端切除術と意図的再植術がある。双方ともに便宜的な外科的侵襲を大きく加えるため、有病者や高齢者などの患者には施しづらい場合もある。また、術中・術後にさまざまなリスクも伴う。そこで筆者は、マイクロスコープを駆使して、切開・剥離・抜歯などの便宜的な外科的侵襲を一切加えずに、終始根管経路で根尖を短くし、根管内から根尖孔外までのさまざまな問題を低侵襲でクリアしていく“Internal Apicoectomy” (IA) という新たな術式を考案した。

昨年の本学会第16回学術大会において、複雑な問題を抱えた歯に対してIAを施した2つの症例を供覧し、幸い鈴木賢策賞を受賞することができた。1症例目は、大きな根尖病変の中にガッタパーチャが多量に溢出・遊離し、健全な残存歯質量も少なく、破折ファイルやパーフォレーションも認めたため、意図的再植術は困難と判断した上顎左側第二大臼歯。2症例目は、根管内に多量の感染と、根尖部に大きな病変を認めたが、全身疾患を有し、喫煙習慣もあるため、極力外科的侵襲を加えたくないと判断した患者の上顎左側第二小臼歯である。幸い両歯とも根尖部のX線不透過性が増し、術後経過は非常に良好である。本術式は、従来外科的歯内療法、特に意図的再植術を選択せざるを得なかった部位や症例に対する新たな選択肢となり得るだけでなく、低侵襲ゆえ、有病者や高齢の患者に対しても比較的施しやすい術式であることが示唆された。